

美保中学校区義務教育学校整備事業建築基本設計報告会に係る議事録（概要）

1 日 時

- 1 日目 令和 7 年 3 月 1 2 日（水）午後 7 時
- 2 日目 令和 7 年 3 月 1 3 日（木）午後 7 時
- 3 日目 令和 7 年 3 月 1 5 日（土）午後 2 時

2 場 所

米子市立美保中学校 特別活動室

3 出席者

説明のために出席した職員の職・氏名

【教育委員会事務局】

こども政策課長	永 榮 一博
こども政策課長補佐兼指導主事	遠 藤 幸子
こども政策課主任	白 川 健四郎
こども政策課主任	名 原 裕紀

【こども総本部】

こども政策課長補佐兼保育リーダー	長 門 美香（1、2 日目）
こども政策課係長	永 見 鴻志（1、3 日目）
こども政策課主事	内 海 宏平（2 日目）

【総務部】

総務部次長兼営繕課長	前 田 真二
営繕課担当課長補佐	矢 吹 健一

【設計事業者：清水・ケーアイ特定設計業務共同企業体】

株式会社清水設計 代表取締役	清 水 幸憲 氏
株式会社清水設計 次長	岩 本 孝 氏
有限会社ケーアイ建築設計 本店管理建築士	石 原 啓之 氏（1、2 日目）

【設備設計事業者】

株式会社ティビィエム 代表取締役	赤 井 禎 氏（1、2 日目）
株式会社ティビィエム 課長	内 藤 芳真 氏（3 日目）

4 参加者

- | | |
|-------------------|-------|
| 1 日目 開校準備委員及び専門部員 | 7 名 |
| 2 日目 地域住民及び保護者 | 1 1 名 |

5 次第

(1) 説明

ア 美保中学校区義務教育学校整備事業について

イ 建築基本設計の概要について

(2) 質疑応答

6 質疑応答の概要

【1 日目】

質疑	回答
図書館の吹き抜けはよいと思うが、広い空間なので、空調効率のことが気になるかどうか。	児童生徒が実際に過ごすエリアを集中的、効率的に冷暖房していく居住域空調という考え方で、床面から送風する「床吹き出し空調」とします。熱負荷計算や最新の求められている空調の設計条件で負荷を計算し、十分な能力の空調機を計画しています。児童生徒など利用者が安全に快適に過ごせるように計画しています。（設備設計事業者） メディアセンターは、校舎の北側に配置し、気温の上昇を抑えるようにもしています。また、遮光として校舎全体にメンテナンス用のバルコニーを設置しています。（設計事業者）
児童生徒数が増えた場合のことを考えると、図書館を2階までの吹き抜けにして、3階部分を多目的スペースにした方がよいように思うかどうか。	現時点で全学年2クラスを想定しています。現時点での推定数から見ると、児童生徒が増えても2クラスで対応できると想定しています。普通教室以外にも特別支援学級や多目的室などに使用することができる予備教室を9室整備しており、間仕切りを設けるなど柔軟な対応ができるようにしています。今後の児童数の増減に十分対応できると考えています。（こども政策課）
津波などの災害時、図書館の3階部分に予備スペースがあると利用できるのではないかと。	この地域は津波の浸水想定区域ではないため、津波に対応した避難設備を特別に設けてはいませんが、管理用通路から屋上に上がることもできる造りとなっています。（こども政策課）
避難所として何かできることがあるか。	交流棟と体育棟を避難所として想定しており、空調も設置する予定です。

	また、停電時には非常用ガス発電機を使い、交流棟一階の空調、照明、コンセントが使用できるように整備するとともに、職員室の一部では、外部との連絡用に全庁 LAN が使用できるような整備を考えています。 また、受水槽も非常用ガス発電機によるバックアップの対象としているため、断水していなければそのまま水を使うことができますし、断水していても受水槽に水がある間は水を使うことができます。 さらに、体育棟に太陽光発電設備の導入を検討しているところです。 したがって、一定程度の避難所としての機能は具備していると考えています。（こども政策課）
以前から防災に特化した校舎を要望していた。4校が廃校となることで、4つの避難所がなくなる。義務教育学校の体育館棟で4校分受け入れられるのか。 原子力災害についても心配である。これらのことを今後も考えてほしい。	4校が廃校となり、義務教育学校1校になることについて、体育館の数は減ってしまうことは事実ですが、体育棟と交流棟に避難していただくことを想定しており、空調も完備する予定であるため、一定程度の人数を受け入れることは可能であると考えています。（こども政策課） 【※当日回答の補足】 災害はその種別、規模が様々であり、原則として避難所に行くことだけが避難行動ではありません。お近くの学校が必ず避難所として開設されるとは限らず、公民館、地区体育館、学校など被害の状況等を踏まえて開設する避難所も変わることが想定されます。近年、幸いにも大きな災害がないため、公民館から開設する例がスタンダードになっていますが、例えば大規模な地震などが起これば、避難拠点として地区体育館や学校を避難所として開設し、公民館を物資受け取りなどに利用することも想定されます。 廃校後の校舎等については、現在、民間事業者に施設を利活用していただくことを前提に検討がなされておりますので、災害時に避難所として利用できるのかを含め検討を行っていきたいと考えております。

	原子力災害時において、廃校となる4校については、現在、地区公民館と同様に一時集結所として使用する計画となっております。一時集結所については、各地区に2箇所以上を指定(設置)したいと考えております。そのため、廃校後の校舎等については自然災害と同じように施設利活用について今後の動向を注視し、廃校後の施設を一時集結所として引き続き使用することができるのか等を踏まえて、義務教育学校を含む市有施設を一時集結所に追加すべきかを検討する必要があると考えております。
駐輪場はどこに整備するか。	駐輪場は、屋根付き開放廊下の両端に設けています。米川側、崎津小側から校地内に入る計画です。(こども政策課)
屋根付き開放廊下は、自転車も通るなら、徒歩の児童とぶつかる可能性があるのではないか。	学校の敷地内に入ったら、自転車の生徒は自転車から降り、押してもらいたいと思います。屋根付き開放廊下は3メートルくらいの幅があるので、徒歩と自転車は分離できると考えています。(設計事業者) 自転車の乗り方等のルールを決めたり、徒歩と自転車の区分けをしたり、今後の教育環境部会などでもご意見をいただきながら進めていきたいと考えています。(こども政策課)
2階、3階部分の手すりの高さはどのくらいか。	建築基準法上は1.1メートル以上とされていますが、学校なので1.2メートルなど高めに設定したいと考えています。イメージ図では、格子が広めになっていますが、頭が入らない幅にしたいと考えています。(設計事業者)
認定こども園の床材は、コンクリートの上に木を貼るのか。	園の先生方と床材について意見交換をしてきています。どの床材にもメリット、デメリットがあるので、引き続き協議を進めていきたいと考えています。(設計事業者)
大階段の空調はどうなっているか。	交流スペースにはエアコン等を設置したいと考えていますが、長時間過ごす教室の空調のようなものではなく、暑さや寒さを軽減するようなものです。(建築設計業者)

	全館空調はコスト面で難しいですが、設置費用や維持管理費等のバランスを取りながら、使いやすい計画にしていきたいと考えています。(設備設計事業者)
体育館は講堂ではないか。講堂は音の響きがよく、音が全然違うと感じている。	メインアリーナにはステージを設けていますので、講堂として活用できます。音響はホールのようにはいきませんが、担当課と相談したいと思います。(建築設計業者)

【2日目】

質疑	回答
開校が3年から5年程度遅れる理由を聞きたい。	当初令和10年4月を開校目標としていましたが、現時点で3年から5年程度遅れる見通しとなりました。事業としては、なるべく早い開校を目指し、令和13年4月を開校目標としたところです。 開校が遅れる理由としては、まず、設計に当初の想定以上に時間を要したところです。また、各工事においても、設計を反映した工事や全国的な建築資材の調達状況等を考慮すると、当初の想定よりも多くの工期を要することが判明したところです。(こども政策課)
以前の計画を立てたときより、設計の内容が変わったのか。	以前のスケジュールは、各種設計に入る前に立てたものでした。設計を進める中で、実際の工期が分かってきたところです。3年から5年とスケジュールに幅があるのは、昨今の建築資材調達の難しさ等も想定してのことです。(こども政策課)
造成工事の期間が長いように思うが、敷地はどのくらい上げるのか。学校敷地は、和崎かけはし通りより低くなるのか。	敷地周辺道路の県道和崎かけはし通りに対して、米川の方が一番高く、崎津小側の市道の方が一番低くなっています。和崎かけはし通りの真ん中をゼロ(基準)として取っています。米川寄りの出入口は少し下って入ります。逆に市道寄りの出入口は少し上がって入ります。崎津小側の市道から見ると、校舎側は約1.5メートル程度の高さとなり、大グラウンド側は校舎側から約50センチ下がる高さとなる設定です。学校敷地校内にはスロープで入る想定です。(建築設計業者)

作兵衛川改修とあるが、学校と関係あるのか。	学校の排水先を崎津小前を流れる作兵衛川で計画しています。この作兵衛川は、雨の状況によっては一部で洪水が発生することがあるため、改修を予定しています。出水期を避けての工事となるため、数年に分けての計画としています。(こども政策課)
グラウンドは開校してからの工事となるのか。 普通は工事が全部終わってからの開校と考えるが、補助金の関係なのか。	グラウンドは開校後の整備となります。建築資材を置いたり、建物が完成した後に外構を整えたりするため、並行しての工事が難しい状況です。全てが整ってから開校するというのも一つの考え方ではありますが、少しでも早く子どもたちを新しい学校で学ばせたいと考えています。 大きい事業ですので、国の財源を活用しながら進めていきます。活用を想定している負担金は、開校年度とその前3年度が交付対象という決まりがあるため、令和13年4月が開校というスケジュールとなります。(こども政策課)
グラウンドだけ完成が開校から1年遅れる理由がよくわからない。全面を造成するので、一緒にできるのではないかと。資材は和崎かけはし通り側の駐車スペースにおけばいいのではないかと。補助金の関係なのか。	敷地は全面を一緒に造成はしますが、その上でグラウンド部分に仮設や建築資材等を置きます。また、建物が建った後に外構を整えるので、グラウンド工事が後になります。交付金や負担金のスケジュールと建築工事とグラウンド工事が同時にできないことは別の話です。(こども政策課)
最近、入札不調とか工事現場の人手不足とかよく耳にするが、そういったことをどれくらい想定した上での開校目標なのか。	資材調達の遅れ等も見込んだ上で計画を立てています。不測の事態は別として、今考え得るところは考慮した上で令和13年としています。(こども政策課)
もし市長が変わって方針が変わることがあったら、これ以上遅れることもあるのではないかと。	市の体制の影響についてですが、先ほども説明しましたが、義務教育学校設置は地域住民、保護者、学校関係者、学識経験者等からなる校区審議会で慎重に審議をされ、いただいた答申を踏まえ、教育委員会で方針を決定しました。今後もそれを踏まえて事業は進めて行きます。市議会でも、事業の進捗はその都度説明をさせていただきながら、進めていくものと考えています。(こども政策課)
以前の説明会で、開校遅れへの対応として、既存の4校の修繕はしていく	体育館の空調については、新しい学校を設置する場合等には整備することを検討するという方向性

と言われた。議会で体育館のエアコンについて議題に上がっているように、他の学校の体育館にエアコンが整備されるなら、美保地区の4校の体育館にも義務教育学校の開校までに、エアコンを付けてもらえるのか。	です。既存の学校の体育館についても、順次エアコンを整備するというわけではなく、それぞれの建物の老朽化の度合いや、断熱性能等も勘案しながら、検討を行っていくものでございます。 また、以前の説明会では、子どもたちの安全のために必要な校舎の修繕はさせていただくとお話ししましたが、体育館の冷房設置については申し上げていないと思います。(こども政策課)
説明の内容はよくわかったが、この話をしっかりと聞くべきなのは、子どもを通わせる保護者だと思う。しかし、今回設定された時間帯は出にくい。動画配信やWEB ミーティングなどもしてほしいがどうか。	たくさんの方々に聞いていただける方法を今後検討していきたいと思います。(こども政策課)
認定こども園が併設されるが、今の保育園はどうなるのか。	崎津保育園と小鳩保育園を統合し、この認定こども園になります。和田保育園は、米子福祉会の園になりますので、現状のまま変わりはありません。米子市が平成30年に公立保育所の統合方針を立てた際には和田保育園を含めた3園の統合計画でしたが、その後の子どもの数の減少等もあり、米子福祉会は統合は見合わせるという判断をされました。(こども政策課)
グラウンド工事が開校してからということだが、その間崎津小のグラウンドを使用するのか。移動の際の安全はどう確保するのか。	まだ確定していませんが、グラウンドが完成するまでは、崎津小グラウンドの活用も想定されます。跡地活用との兼ね合いもあります。部活動に関しては、美保中グラウンドも選択肢の一つとなり得ると考えています。安全面については、引率の先生方その他、地域の方々などにもご協力いただきながら、十分に配慮していきたいと思います。(こども政策課)
この地域は干拓虫(ヌカカ)の被害が大きい。新しい学校で、何か対策はあるか。	現時点で具体的に示せるものではありませんが、そういった視点も持ちながら事業を進めていきたいと思います。(こども政策課)
遮音面は今と同等レベルか、今よりよいのか。	今の学校の遮音の状況や対応については把握していませんが、新しい学校は鉄筋コンクリートの建物なので、かなり遮音性はあると思っています。 また、開口部についてですが、最近のメーカーは

	かなりの遮音性があります。現在は基本設計の段階として、メーカーの比較表を米子市に提出しています。それらの数値を元に、遮音性について検討しながら計画していきます。(基本設計業者)
校舎が3階建てなので、園庭から大山が見えないのではないかと。園庭に日は当たるのか。	基本設計を始める前から、大山が見えるようにするというテーマは聞いていました。園からも学校からも大山が見えるような設計案はいくつか作りましたが、どうしても動線が長くなってしまいます。交流を図るためには、ある程度レイアウトをコンパクトにする必要があります。園からは直接大山が見えませんが、校舎の標準的な長さや全体のレイアウトなど総合的に判断して今の配置となりました。 日当たりについては、太陽の高度が低くなる冬至の日影図を作成しましたが、園舎や園庭に陰はほとんど落ちませんでしたので、この配置としたところです。(基本設計業者)
校舎は3階建てだが、エレベーターはあるのか。	昇降口の近くと交流棟に1機ずつ、合計2機整備しています。(基本設計業者)

【3日目】

質疑	回答
北西風や微砂等、周辺環境についてどう考えているか。	北西風の対策については、当初より考えていました。一つは、園舎と校舎を県道側に配置することで、園庭や校庭を風から守るようにしています。 また、北側は駐車場にしており直接路面は出ないため、敷地内からの微砂は発生しないと考えています。米川側はもともと木が植えられていて、南側は緑地にすることを考えているため、ある程度、微砂について軽減できると考えています。グラウンドからの微砂についてはグラウンド整備がされますので、一般の農地よりは軽減されると思います。校庭の芝生化については、今後検討されると思います。(基本設計業者)
風の影響、砂を防げるか。北側から入るのではないかと。	北西からの風をすべて遮るのは難しいです。園も学校も子どもたちが多くの時間を過ごす保育室や普通教室は、北を向かないようにしています。園の

	管理部門はどうしても北を向いてしまいますが、子どもたちへの影響を少なくしています。園庭やみんなの広場は、建物で遮るようにしています。この地域特有の微砂を止めることはできませんが、校舎の各層の外回りに管理用のバルコニーを設置しており、砂が校舎に吹き付けても清掃がしやすいようにしています。（基本設計業者）
日当たりは大切だが、どのように考えているか。	学校棟の南側、こども園棟の南側にそれぞれ普通教室と保育室を設置する予定であり、一定程度日当たりについては考慮しています。（こども政策課） 時間帯毎の日当たりについては、夏至、冬至、春分（秋分）のシミュレーションを行いました。北側の畑に1～2時間程度影ができる時期はありますが、隣接の農地への影響は少なく計画しています。（基本設計業者） 採光については、確認しています。特にこども園棟は、必要以上に光を入れると保育室が熱くなりすぎる心配があります。暑い日差しを入れすぎると居住空間を痛めるので、柔らかい光を入れるように取り組んでいます。（営繕課）
今の学校は送迎の車と児童の出入口が一緒になっているので危ない。児童は南側から入るようにして、児童生徒と車の出入り口は分けた方がよいのではないか。敷地内の歩車分離はどのように考えているか。	基本的には、児童生徒は校舎とグラウンドの間の屋根付き開放廊下の左右から入るように計画しています。車は県道側から入りますし、通学バスを活用するようになった場合も、県道側から出入りする計画としています。（基本設計業者）
10年、20年ごとに改修のお金がかかるようになると思うが、なぜ、鉄筋コンクリート造りにしたのか。なぜ、陸屋根にしたのかを伺いたい。	色々な造りがある中で木造の想定もありましたが、米子市から「省エネや耐久性、メンテナンスの面から鉄筋コンクリート造りでお願いしたい」というお話でした。（基本設計業者） 米子市の公共施設は、省エネ、環境負荷の軽減、断熱の面で住環境を整えていこうとしています。木造、鉄骨造り、鉄筋コンクリート造りなどいろいろありますが、建設費用、維持管理費用、メンテナンスなどのトータルコストを総合的に比較して、鉄筋コンクリートと陸屋根が最適だと判断して取り組

	んでいます。(営繕課) 米子市の施設については、国内、特に県産材を積極的に使っていこうという考えです。杉板を内部の仕上げに使ったりすることは、ずっと取り組んでいます。当然のこととして、伝統が途切れることなく、引き続き最大限地元の県産材を利用し、地域貢献、そして環境にも役立つよう、しっかり使っていきたいと考えています。(営繕課)
木造の場合、大阪万博の資材がたくさんあるので、使ったらよいのではないか。木造という伝統を守っていくことも大事だと思う。子どもたちにとって木造は良いと思うが、内装に木は使わないか。	
こども園棟に0歳児の部屋や保健室はないのか。	認定こども園の受入は1～5歳児で、0歳児は想定していません。現在の崎津保育園と小鳩保育園も1～5歳児の受入です。園の場合は、市全体を一つの区域として考えますが、少子化の中、今後も需要より供給が多くなることが見込まれます。近隣に0歳児を受け入れている民間の園もありますので、こちらのこども園では0歳児の受け入れはしないこととしました。保健室は、事務室（ここが職員室になりますが）内に保健室となるスペースを設けることとしています。(こども政策課)
なぜ、0歳児の受け入れをしないのか。	当初の想定では0歳児から受け入れることも検討の一つでしたが、一昨年、社人研(国立社会保障・人口問題研究所)から新しい人口推計が出たことを受けまして、昨年、公立保育園の定員設定の見直しをし、崎津・小鳩統合園については、0歳児を受入れをしないことにしました。現在、1歳児は入所の希望が多い状況にありますが、0歳児は入りやすい状況です。なお、こども園には、子育て支援室を設置し、在宅育児の方向けの0歳児のお子さんも来て交流したり、保護者の方が悩みを相談したりできるように計画しています。(こども政策課)
グラウンド整備は、どうしても開校年度になってしまうのか。	建物の工事が終わってからの整備になります。建築資材置き場にしたり、仮設事務所を構えたり、建物ができた後に外構を整えたりする関係で、どうしてもこういうスケジュールになります。他県の事例を見ましても、グラウンド整備が開校年度になることも多いようです。安全面には十分配慮して進めていきます。(こども政策課)

体育棟の冷暖房はどうなっているか。	メインアリーナ、サブアリーナ、武道場も含めて整備を予定しています。(こども政策課)
美保中学校区は野球のスポーツ少年団はあるが、サッカーはない。グラウンドは野球場に広い面積を充ててほしい。	グラウンドの内訳は現状の美保中学校の部活動を想定していますが、令和12年度のグラウンド設計の際に、グラウンドの詳細を検討します。いただいたご意見は参考にさせていただきます。(こども政策課)
開校準備委員会の委員に、小・中学校の保護者だけでなく、保育園の保護者を入れてほしい。	開校が遅れるため、保護者の方の入れ替わりもあることは認識しています。現在も部会に未就学児の保護者の方々にも入っていただいています。先日行った保護者アンケートでも、開校準備委員でなくても未就学児の保護者が意見を言えるような場を設定してほしいというご意見もいただいたところですので、そのような場についても検討していきたいと思います。(こども政策課)